（一部抜粋）

サステナビリティ経営方針

2026年10月

オーエスジャパン　株式会社

代表取締役　早乙女　崇

サステナビリティ経営方針

世界の状況と企業への期待

現在、世界は気候変動等の環境問題の深刻化、格差や貧困の拡大、感染症の拡大、紛争の勃発等、難題に直面しており、企業を取り巻く環境も急速に変化、多様化、複雑化しています。その様な状況のもと、企業には「持続可能（サステナビリティ）な社会の実現」に貢献する社会的責任があると認識し、環境負荷低減、人権尊重等に取組んでおります。

また、近年、SDGsへの関心の高まりなど、社会課題の解決に向けた企業への期待も高まっております。

当社事業の意義

当社の事業は、自動車の安全で快適な走行を支える重要なインフラの一端を担っています。必要な部品を「必要なときに、必要な量を、確実に」供給することで、お客さまの事業活動の継続と地域の人々の安心・安全な移動を支えています。全従業員が高い品質・安全意識を共有することで、持続可能な社会づくりに貢献しています。

今回の検討結果

当社はこれまで、安全管理や地域社会との連携等に関する取組みを進めてきました。一方、事業継続の観点からはこの強みを向上するべく、従業員が健康で生き生きと働ける職場環境の整備や、温室効果ガス排出量の削減等の環境配慮の取組みも重要と考えています。こうした課題を解決すべく今回7つのマテリアリティを設定し、重点的に取組んでまいります。

サステナビリティへの具体的な取組み

マテリアリティ

無事故無違反の徹底



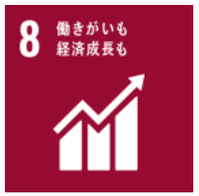
KPI（目標と指標）　労働災害件数ゼロ件の実現

選定理由　労働災害の防止に取組むことは、従業員が安心して作業できる環境を整備するだけでなく、対外的な信用の維持が期待されることからマテリアリティとして選定

アクションプラン
- 危険予知運動（KY運動）の徹底
- 事故が発生した場合には社内で原因分析を行い、再発防止策を策定する
- ヒヤリハット記録の実施
- 職場の安全・衛生、安全衛生に関する方針/規程の策定

取組効果
- 従業員の安全確保
- ステークホルダーからの信頼向上





マテリアリティ

環境負荷の低減



KPI（目標と指標）　2030年までにSBT認定を取得する

選定理由　気候変動への対応は事業継続と競争力維持に直結する重要課題であり、温室効果ガス削減目標の設定はステークホルダーの信頼向上と持続的成長に不可欠であることから、マテリアリティとして選定

アクションプラン
- 自社の排出量の算定と削減目標の設定
- 排出量と進捗状況を毎年集計し、社内外へ開示・改善につなげる
- 環境保全に関する方針の策定

取組効果
- エネルギーコスト削減と業務効率化による収益性向上
- 規制・炭素価格への対応力強化による事業リスクの低減
- 環境配慮企業としての信頼・ブランド価値向上





サステナビリティへの具体的な取組み

マテリアリティ

地域社会貢献



KPI（目標と指標）
自社またはパートナー企業の地域イベントへの参加・協賛を1件/年行う

選定理由
地域社会とのつながりを強化し、信頼される企業としての役割を果たすことが、事業の持続的な成長に重要であることから、マテリアリティとして選定

アクションプラン
- 地域の団体・自治体と連携し、参加・協賛可能なイベントを毎年リストアップ
- 社内で募集・調整を行い、従業員が参加しやすい形で企画・運営に関わる
- 実施内容を社内外に発信し、次年度以降の継続・改善に活かす

取組効果
- 地域住民・自治体との関係強化と信頼向上
- 企業の社会的認知度・ブランドイメージの向上
- 従業員の社会貢献意識やエンゲージメントの向上
- パートナー企業との信頼関係強化



マテリアリティ

働きやすい職場環境の整備



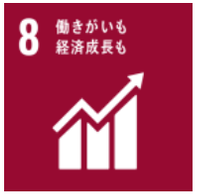
KPI（目標と指標）
定時退社日を週1回設定

選定理由
従業員が健康でいきいきとやりがいをもって働くことのできる環境を整備することは、事業の成長に不可欠であることから、マテリアリティに選定

アクションプラン
- 毎週水曜日を「定時退社日」とし、原則残業禁止とする社内ルールを明文化
- 管理職向けに働き方改革に関する研修を実施し、率先して定時退社を実践する
- 残業時間や定時退社日の実施状況を毎月集計し、社内で共有・改善につなげる

取組効果
- 従業員の心身の疲労軽減とワークライフバランスの向上
- 生産性の向上や業務効率化の推進
- 働きがいの向上による人材定着率の改善





サステナビリティへの具体的な取組み

マテリアリティ

零細・中小企業の繁栄



KPI（目標と指標）

2031年までにパートナー企業を5社増やす

選定理由

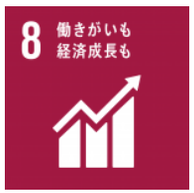
パートナーシップの拡大により、技術力やサービスの幅が向上し、環境・社会課題への対応力が強化され、当社およびステークホルダーの持続的な成長に寄与することから、マテリアリティとして選定

アクションプラン

- 既存パートナーとの関係強化と紹介促進
- パートナー候補企業のリストアップおよび定期的な情報交換・面談

取組効果

- 技術力・サービス品質の向上
- 事業の安定性・拡大
- ステークホルダーからの信頼向上





マテリアリティ

品質管理の強化



KPI（目標と指標）

2030年まで毎年、仕入不良率を前年比10%削減する

選定理由

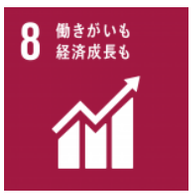
品質管理体制を強化し、仕入不良率の低減を図ることで、顧客満足度の向上と業務効率化に繋げることが重要であることから、マテリアリティとして選定

アクションプラン

- 仕入先への品質管理、再発防止策の指導
- 品質と製品安全、方針/規程の策定

取組効果

- 仕入不良品に対する追加加工の発生を抑制する事での業務効率化。
- 製品・サービス品質の向上による顧客満足度の向上
- 品質向上による販売先企業への信頼性向上







サステナビリティへの具体的な取組み

マテリアリティ

情報セキュリティの強化



KPI（目標と指標）

サイバーインシデント発生件数ゼロの継続

選定理由

デジタル化の進展に伴い情報セキュリティリスクが高まる中、取引先から信頼される企業であり続けるため、情報資産の適切な管理とセキュリティ対策の強化が重要であることから、マテリアリティとして選定

アクションプラン

- 情報セキュリティ対策ツールの運用強化
- 情報セキュリティ責任者の設置
- 情報セキュリティ方針/規程の策定

取組効果

- 情報漏洩やサイバー攻撃による事業リスクの低減
- 取引先からの信頼性向上
- 安定した事業継続体制の構築



